

ダイヤモンド 5つの真実

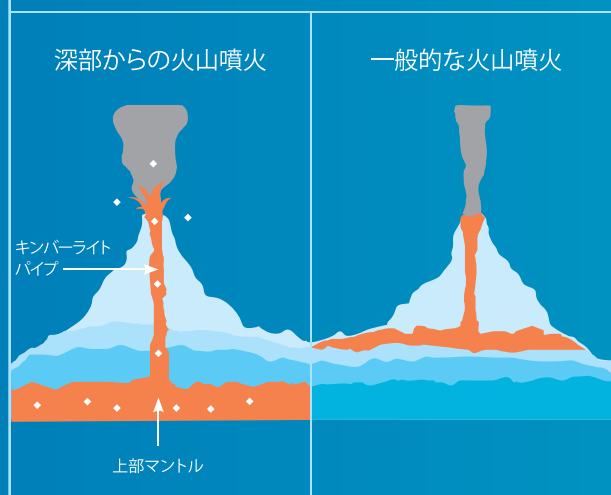


1.

地球上の生命体よりも古いダイヤモンド 自然の奇跡

地球に生命が存在するよりはるか以前からダイヤモンドは存在した。ほとんどは10億～30億年前に生成したもので、これまでに発見された中で最も新しいもので1億年前のものである。地下100マイル(160km)以上の深さで誕生したダイヤモンドは、恐竜の時代よりずっと昔の3～4億年前に火山噴火によって地表に押し出されたもので、人類にとって手に取ることのできる最古の物体であると言える。

ダイヤモンドは10～30億年前にできた



ダイヤモンドが生成された場所は
一般的な火山のマグマの3倍の深さにある

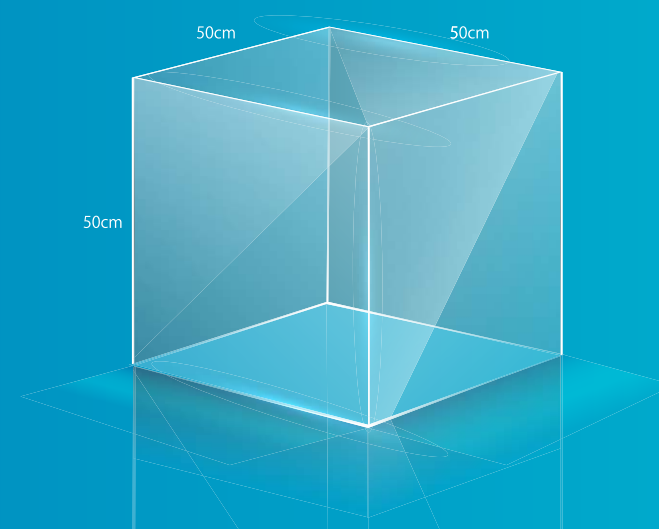
2.

希少なダイヤモンド:希少性は日増しに高く

採取されるダイヤモンドの量は2005年がピークで、今後10年で劇的に減少すると思われる。今日のダイヤモンドのほとんどを含有するキンバーライトは、太古の地下の火山性パイプで、発見するのは非常に難しい。実際に現在採掘されているダイヤモンドのほとんどは、何十年も前に発見されたキンバーライトから産するもので、そのためダイヤモンドの産出は徐々に減少しており、ダイヤモンドはますます希少性が高くなっている。

ダイヤモンドの年間産出量

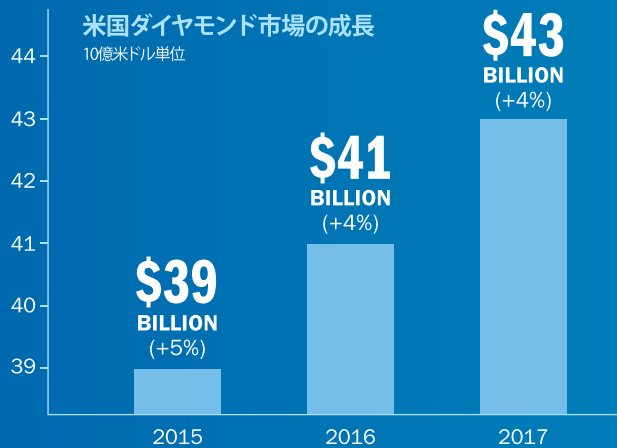
1カラットを超えるダイヤモンドの年間生産量は、ちょうど50 x 50 x 50 cmの立方体に相当する。



3.

ダイヤモンドの需要は過去最大

2017年は、米国を含む世界中の市場でダイヤモンド・ジュエリーがかつてなく堅調であった。ミレニアル世代の購入者層は人口の4分の1であるにもかかわらず、ダイヤモンド・ジュエリーの需要価格の59%を占める。調査によると、ミレニアル世代は本物志向、希少性、貴重性のある製品に強い興味がおり、10億年前の産物であるダイヤモンドはミレニアル達の生活や繋がりにおいて本物志向を表現するには理想的な手段である。本物の天然のダイヤモンドは、あらゆる物事が加速度的にスピード感や人工的側面を増していくスマホ世界において、深い情緒的な意味を備えたものである。



59%

2017年ダイヤモンド・ジュエリー需要価格の59%はミレニアル層の消費者であった。

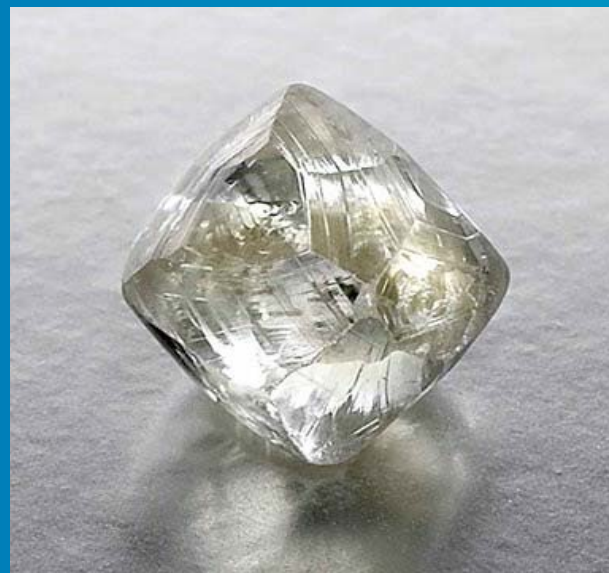
4.

「紛争ダイヤモンド」は過去の話

2006年の映画「ブラッド・ダイヤモンド」で描かれたいわゆる「紛争ダイヤモンド」は1990年代が舞台で、そのストーリーの大半は過去の出来事であった。それ以降、アフリカにおける暴動は治まりを見せ、業界は厳しい管理体制(例えばキンバリー・プロセス)を導入し、紛争地域から採られたダイヤモンドは一切取引しないようにしている。その結果、99.8%のダイヤモンドがキンバリー・プロセスを遵守したものとなっている。さらに、すべての大手生産会社は防衛策をしっかりとっており、自分たちの生産するダイヤモンドは責任ある製造工程を経たものであることを確認できるようにしている。

99.8%

すべてのダイヤモンドの99.8%は
キンバリー・プロセスの認証を受けている。



カナダのダイアヴィク鉱山を稼働させるエネルギーの10%近くが現地の風力発電によるもの



5.

世界におけるダイヤモンド産業の貢献度は大きい

ダイヤモンド産業は、世界中で1千万人の人々の生計を支えており、その中には世界のダイヤモンドの15%を供給するアフリカと南米の150万人の個人及び小規模採掘者とその家族が含まれ、この人々の生計はダイヤモンドの需要に依存している。ボツワナではダイヤモンドが発見されたことにより世界最貧困国から中所得国へと変化し、現在ではボツワナのGDPのほぼ3分の1に相当するダイヤモンドによる収益のおかげで、すべての子供たちが13歳まで無料の教育を受けることができる。インドのグジャラート州では、ダイヤモンド産業が100万人ほどを雇用しており、学校や病院に出資もしている。

どうみても、ダイヤモンド採掘は環境負荷が非常に小さく、地球からダイヤモンドを回収するのに化学薬品が使われることは無い。採掘会社は国や地域の自治体から厳しく監視されている。操業の多くはカーボンニュートラル(二酸化炭素排出量がプラスマイナスゼロ)を目指したプロジェクトに取り組んでいる。1カラットの、天然の研磨済みダイヤモンドの二酸化炭素排出量は、同じ大きさのたいのCVI合成ダイヤモンドと比べて小さい。